

第 67 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

開催日：令和 4 年 11 月 8 日（火）13:00～14:35

実施場所：オンライン+ウォーターステーション琵琶 1 階会議室

出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、平山、辻、矢野

琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上、福西

事務局：琵琶湖河川事務所；荻田、松田、堀

流域連携支援室；中西、松岡、井上、寺井、小野

(敬称略)

1. 議事

- 報告 (1) 第 66 階河川レンジャー制度運営委員会の議事録について
(2) 事務局からの報告
(3) 河川レンジャー中間活動報告
- その他
(1) 2022 年度の年間スケジュール
(2) 河川レンジャーレポート vol. 47 発行について

2. 結果 [凡例：○ 委員、□ 河川レンジャー、△ 事務局]

■報告

(1) 第 66 階河川レンジャー制度運営委員会の議事録について

△前回委員会の主な議事結果の報告を行った。

(2) 事務局からの報告

△「第 66 回河川レンジャー制度運営委員会以降の動きについて」の報告を行った。

○ 第 1 回河川レンジャー勉強会は、福西河川レンジャーの活動を支援室が支援しているという従来の構図であると思うが、どのような位置付けで企画されたのか。

⇒△勉強会は通常は河川レンジャーのスキルアップのために開催している。今回については、本来ならば、支援の一環であるが、活動の展開が図れるように河川レンジャーの活動に直接関係する関係者とのヒアリングの場を作り、活動の進め方をアドバイスすることで勉強会とした。

○ レンジャートライアルの活動の感想では、河川レンジャーが河川の維持や保護、活用をする人という印象を持たれているようだが、河川レンジャーは市民活動とは違う役割があることを支援室は伝えているか、トライアルの方は役割を把握されているかを聞きたい。

⇒△レンジャートライアルの方には、イベント前の学校生徒への目的などを説明する場への参加など、活動には聞く、話すなど過程があることを十分説明させていただいている。

(3) 河川レンジャー中間活動報告

河川レンジャー 3 名より中間活動報告がなされた。各河川レンジャーの中間活動報告に対する委員の意見・助言は以下のとおり。

【根木山 河川レンジャーの中間活動報告について】

○ 河川レンジャー活動で集めた住民の声について、今後どうつながるのか。その中で、特に河川管理者への具体的な要望があったのか。

- ⇒□過去に開催された河川事務所・守山市と河川レンジャーとの意見交換会において、集めた住民の要望を伝えて意見交換をしたことがある。それを受けて、守山市は中洲親水公園の利用状況を把握し、事業の参考にされたと思う（公園案内利用ルールの改正、トイレの整備、集排水場の倉庫化等につながっている）。今年度においても引き続き、住民の活用状況を行政にフィードバックするため聴取している。
- 河川レンジャーが、河川管理者が対応するような声を集められた場合に、国交省の方では予算につなげる流れをどのようにされているかを教えてほしい。
- ⇒○河川管理者の役目は、河川レンジャーからの情報を、いかに知恵を出して予算や整備に反映するか、川を好きになってもらう施策に反映するかということだと考えている。今後とも小さい声でも構わないので河川管理者に届けてほしい。
- 今後のレンジャー活動において、活動に参加していない住民や野洲川上流の人の声も集めていきたいとのことであるが、具体的な計画があれば教えてほしい。
- ⇒□かつて、三井河川レンジャーが河原を歩きながら、声を集めることをされていたが、そういうこともする必要があるかもしれない。また、近々開催予定の支援室主催の勉強会で、他のエリアへの活動展開の方法や声の集め方などに関するノウハウを学びながら、やり方を考えていきたい。
- 根木山レンジャーの活動に学校、保育園等といろんなところと連携して動かれていて先生の声の変化が聞けるなど、成果が分かりやすくまとまっていた。一つの活動でも準備や、様々なノウハウが積みあがっていることが伺えた。こども園の先生向けの講習がよかった。上流地域での展開でも参考になるのではないかと。
- 下半期に向けて活動成果を高めるために具体的にしようとしていることを教えてほしい。
- ⇒□守山の中州地区については、整備が一段進む中で住民の方がさらに前向きな状況になることを期待している。
- 野洲川上流は、琵琶湖河川事務所が瀬・淵再生工事の環境調査が進んでいると聞いているので、追加情報を得ながら、住民とのつながりができればと思っている。
- 活動の中で河川レンジャーになってもよい人が見つければ、活動の芽ができると思う。

【水上 河川レンジャーの中間活動報告について】

- レンジャートライアル 3 名が支援した内容は全般的な感想をヒアリングしてもらったのか。また、トライアルの方たちの反応で印象的なことはあったか。
- ⇒□トライアルの方が行った参加者への質問は、全般的な感想である。自分自身は、企業、中学校への聞き取りを別途行っており、現在とりまとめ中である。
- トライアルの方はみな熱心で、中にはトライアルから河川レンジャーになっていただける可能性も高いと感じた。活動を通じて仲間を増やすことができればと思う。
- レンジャー活動の参加を呼びかけるにあたっては、「参加人数を増やすこと」、もしくは「川づくりに参画する人を増やすこと」のどちらを念頭に置いているのか。
- ⇒□後者を念頭に置いている。地元の方との信頼関係づくりを進めるうえで、川づくりに関する意見を言っていただける方を増やしたいと思う。

- レンジャートライアルの方は、単発での関わりになるかもしれないが、それも良いと思う。若い人が活動に関わっていると、周りから見えていただく中でつないでいくという方法も現実的には必要かと思う。大学生のように年限付きで滋賀にいる人もいるので、そういう関わりも認めながら広く緩やかに現場とつながれていくとよい。
 - ⇒□トライアルから河川レンジャーに必ずしもならなくても、若い人にも河川レンジャーの活動を知っていただくということも大事と思う。
- 河川清掃という切り口で河川の維持管理に地元企業が関わっているが、どのように動機付けを行っているのか。
 - ⇒□(株)レイマックの場合は、担当者との会話の中で実施したいことを引き出し、その結果を反映した企画内容とすることで主体的な参加が得られている。
 - ⇒□アヤハ(株)の場合は、地域・社会への貢献をテーマの社内研修を企画されていることを知り、その企画に河川レンジャー活動を持ち込み、連動させている。
 - ⇒○企業として社会貢献に重きを置いていると思う。滋賀県の河川管理のヒントになればと期待を寄せている。

【福西 河川レンジャーの中間活動報告について】

- 令和5年1月の瀬田川河川清掃の企画は、どういうプロセスで進められているのか。
 - ⇒□琵琶湖で清掃活動をした際に、“淡海を守る釣り人の会”の方と知り合い、その方に瀬田川の河川清掃活動を一緒にしませんか、と声をかけ、快諾していただいた。清掃場所は西岸より東岸にゴミが多いことから東岸を考えており、詳細が詰まれば案内を作り募集を行う予定です。
- 琵琶湖・瀬田川周辺で駐車禁止のエリアの車への注意喚起をしていただいたことにはお礼を申し上げる。接触される場合は雰囲気を見て無理のない活動で継続してもらえたらと思う。
- 6月の水難事故啓発を目的とする応急手当と水難事故発見時の対応講習会を開催された結果、河川レンジャーとして感じたことを教えてもらえますか。
 - ⇒□水難事故発見時の対応については私と上平講師と共同で実施したが、発見した後の救急搬送のやり方、119番した後どうするのかなどは医療従事者としての私の知見が話せるので、次回12月の講習会では深掘りして説明していきたい。また、コロナが少し落ち着き可能であれば、本講習会に消防隊にも講師依頼しようと考えている。
 - ⇒○滋賀県においても、水難事故が多発しており、これまであまり関心がない分野であったが、現実を踏まえると望まれるテーマである。引き続き研修会を盛り上げてほしい。

■その他

(1) 2022年度の年間スケジュール

△今年度の年間スケジュールに基づき、現時点の実績と今後の予定を報告した。

- 河川レンジャーミーティングの実績について、新人河川レンジャーが追加された年度当初などは、ほかの河川レンジャーと会う機会が大事と思うので、各々のレンジャーの活動の進行具合に応じてミーティングを設定するのがよい。

(2) 河川レンジャーレポートの発行等について

△ 河川レンジャーレポート vol. 47 の発行について報告した。

以上